

千葉市根崎遺跡（第7次）

—長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2021

公益財団法人 千葉市教育振興財団

例言

- 1 本書は、千葉市若葉区原町922-3の一部に所在する根崎遺跡の長屋住宅建設に伴う発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業は、高山昇・高山洋子の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
- 3 発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
 - ・確認調査
期間：2019（令和元）年11月8日～2019（令和元）年11月15日 面積：105 m²/1066.69 m² 担当者：山下亮介・井出祥子（千葉市埋蔵文化財調査センター）
 - ・本調査
期間：2020（令和2）年6月1日～2020（令和2）年6月15日 面積：81.0 m² 担当者：小林嵩（公益財団法人千葉市教育振興財団）
- 4 整理作業および本書の製作・編集は、吉村瑤子・新田浩美・北田典子の協力を得て、小林が担当して行った。
- 5 整理期間は、2020（令和2年）年6月16日～2021（令和3年）年3月12日にかけて、断続的に行った。
- 6 遺構・遺物の撮影は小林が行った。
- 7 本書の執筆は、第1章は山下亮介（千葉市埋蔵文化財調査センター）が行い、他は小林が行った。
- 8 出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 9 出土鉄製品の保存処理業務は株式会社イビソクに委託して行った。
- 10 発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。
千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・積水ハウス株式会社・高山昇・高山洋子

凡例

- 1 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
- 2 土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版 標準土色帖」による。
- 3 本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
遺構実測図：1/60、1/40
遺物実測図：土器 1/4・1/3 土製品・石製品・鉄製品・1/3・1/2・1/1
- 4 遺構・遺物の図面は Adobe Systems 社製 Adobe Illustrator で編集作業を行った。
- 5 遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop で編集作業を行った。
- 6 本文中の遺構の略称は以下のとおりである。
竪穴建物跡：SI 土坑：SK

目次

例言・凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 根崎遺跡の概要	1
1 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
2 過去の調査歴	1
3 調査・整理の方法	4
第3章 検出した遺構と遺物	4
1 縄文時代	4
2 古墳時代	7
3 奈良時代	9
第4章 まとめ	13

写真図版

抄録

表目次

第1表 SK1 黒曜石剥片計測表	14	第2表 出土遺物集計表	15
------------------	----	-------------	----

第3表 出土遺物観察表…………… 16

挿図目次

第1図 根崎遺跡の調査歴……………	2	第2図 本調査範囲と確認調査範囲……………	3
第3図 遺構配置図……………	3	第4図 第1号土坑(1)……………	5
第5図 第1号土坑(2)……………	6	第6図 縄文時代遺構外……………	7
第7図 第3号竪穴建物跡(1)……………	8	第8図 第3号竪穴建物跡(2)……………	9
第9図 第1号竪穴建物跡(1)……………	10	第10図 第1号竪穴建物跡(2)……………	11
第11図 第1号竪穴建物跡(3)……………	12	第12図 第1号竪穴建物跡(4)……………	13

写真図版目次

図版1	第1号土坑全景(北東から)、第1号土坑土層断面(北東から)、第1号土坑焼土・炭化物・貝層検出状況(北東から)、第1号土坑焼土・炭化物検出状況(北東から)、第1号土坑貝層検出状況(北東から)、第3号竪穴建物跡全景(南東から)、第3号竪穴建物跡掘方全景(南東から)、第3号竪穴建物跡カマド全景(東から)
図版2	第3号竪穴建物跡土層断面(東から)、第3号竪穴建物跡遺物出土状況(東から)、第1号竪穴建物跡全景(東から)、第1号竪穴建物跡掘方全景(東から)、第1号竪穴建物跡カマド土層断面(北東から)、第1号竪穴建物跡遺物出土状況(南西から)、調査風景1、調査風景2
図版3	第1号土坑、縄文時代遺構外
図版4	第3号竪穴建物跡・第1号竪穴建物跡

第1章 調査に至る経緯

令和元年8月7日付けで、高山昇（以下「事業者」という）から、集合住宅と個人住宅の建設を計画している千葉市若葉区原町922-3（面積1,066.69㎡）について、「埋蔵文化財発掘の届出について」が千葉市教育委員会教育長あてに提出された。試掘の結果、竪穴建物跡が検出されたため、同年9月12日付け31千教埋セ第218号にて、工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。その後、令和元年11月1日付けで、積水ハウス株式会社千葉南支店長、島田正彦（以下「施行者」という）より「埋蔵文化財発掘調査について（依頼）」が提出され、同年11月1日付け31千教埋セ第294号にて千葉県教育委員会教育長あて報告し、同年11月8日～11月15日の日程で千葉市教育委員会が確認調査を実施した。その結果、奈良・平安時代竪穴建物跡などが検出されたため、同年11月15日付け31千教埋セ第323号にて対象面積のうち449㎡を本調査対象範囲として継続協議が必要の旨を施行者に通知した。再度協議の結果、本調査対象範囲のうち建物を建設しない南側の324㎡は保護層を確保したうえで遺跡を保存し、集合住宅及び個人住宅建設部分の125㎡については土木工事により埋蔵文化財に影響が生じるため、記録保存の本調査を実施することで協議は整った。本調査実施にあたっては、集合住宅建設部分の81㎡は、公益財団法人千葉市教育振興財団が、個人住宅建設部分の44㎡は、千葉市教育委員会が実施することとなった。集合住宅部分については、令和2年4月1日付けで事業者より「埋蔵文化財発掘調査について」の依頼を受けて、公益財団法人千葉市教育振興財団が同年6月1日から発掘調査を開始した。

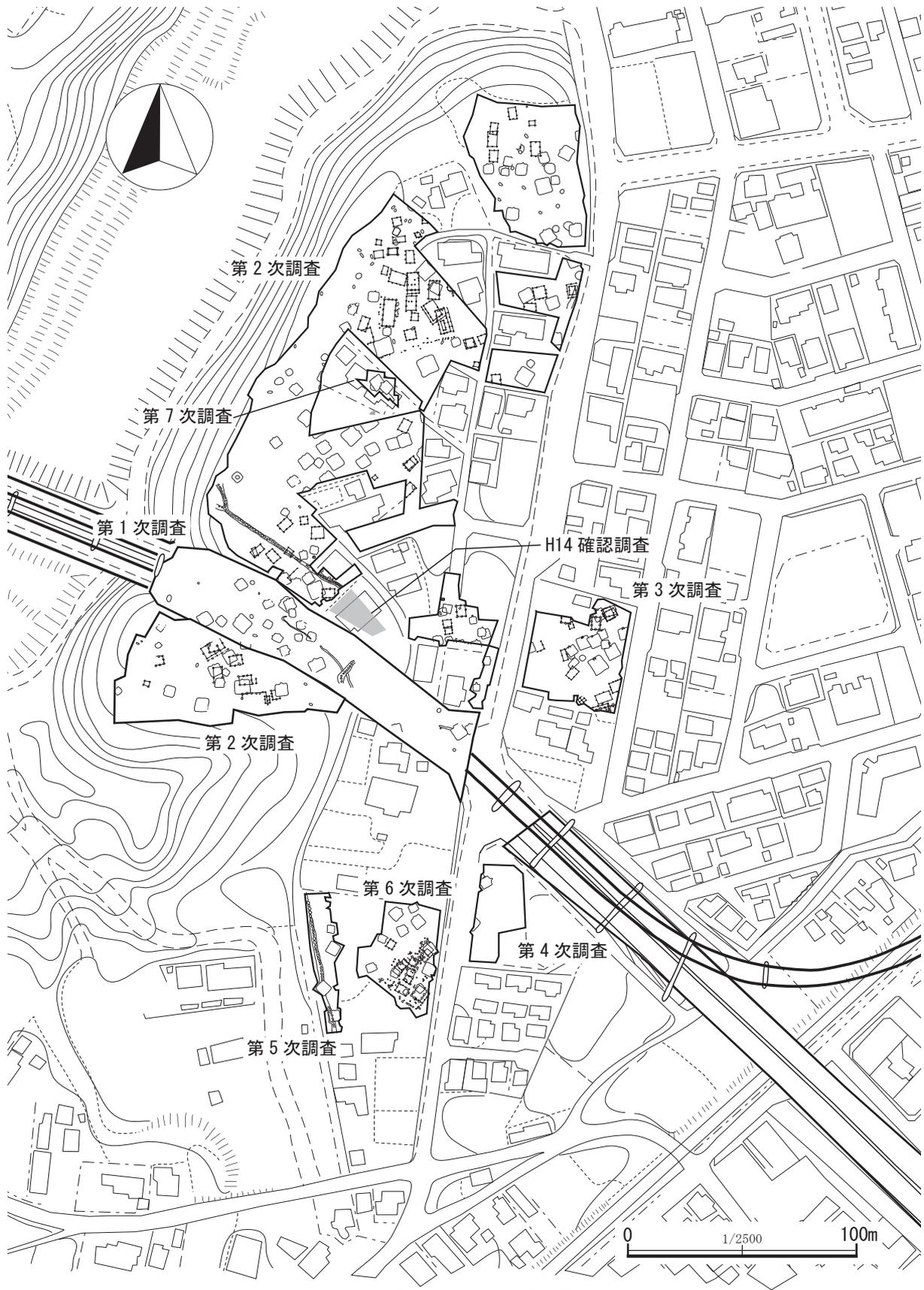
第2章 根崎遺跡の概要

1 遺跡の立地と周辺の遺跡

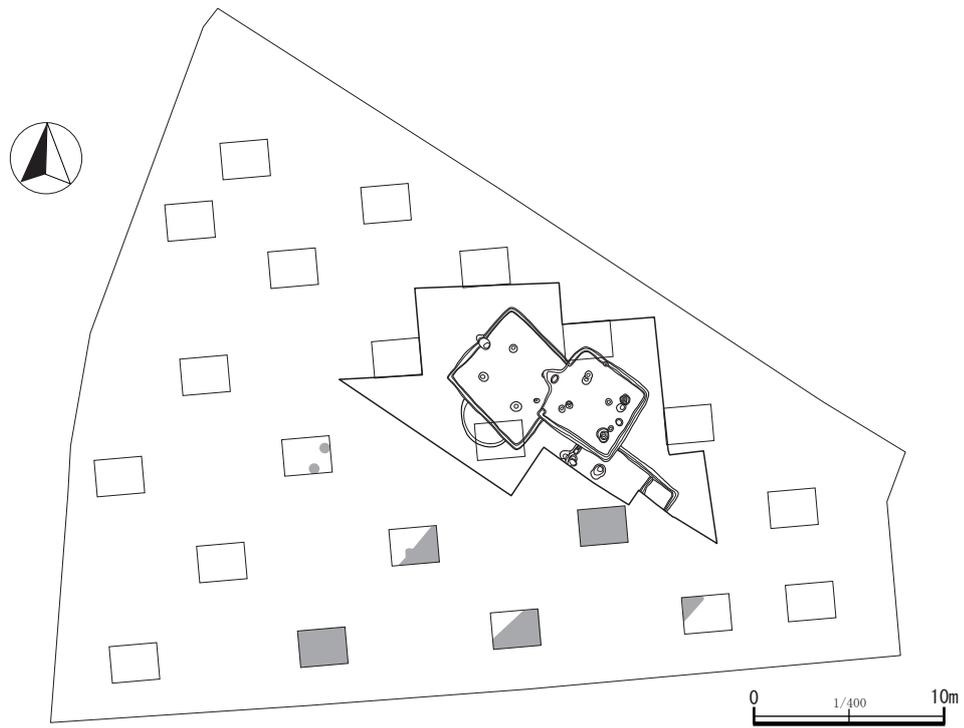
根崎遺跡は、都川に河口付近で合流する葭川支流の台地上、標高約30mを測る台地上に立地している。本遺跡を含む遺跡群は原町遺跡群と呼ばれ、周辺にも多くの遺跡が存在する。縄文時代の遺跡としては山王遺跡や原遺跡で早期～前期後半の遺構・遺物が検出されている。台畑遺跡では中期前葉阿玉台式期の集落跡が調査され、まとまった遺物の出土がある。その後の様相は明瞭ではないが、台畑遺跡などで後期の土器も少量出土している。弥生時代の遺跡は、山王遺跡で後期の土器棺墓の可能性のある土坑が1基検出されたのみである。根崎遺跡周辺において集落の形成が活発になるのは古墳時代後期以降である。本遺跡も含め、山王遺跡・台畑遺跡・原遺跡でも特に古墳時代終末期以降、多数の遺構が形成されるようになり、続く奈良時代・平安時代も竪穴建物跡、掘立柱建物跡、墓域が多数検出され、最も土地利用が活発化した時期といえる。その後の土地利用の痕跡は希薄であるが、台畑遺跡で17世紀後半～18世紀前半と考えられるテラス状遺構や土坑、地下式坑、溝状遺構が検出されている。

2 過去の調査歴（第1図）

根崎遺跡の発掘調査は、今回が7回目である。昭和58・59年度に千葉都市モノレール建設に伴い調査が行われ、その後土地区画整理事業などに伴い調査が行われてきた。過去の調査成果を見ると、根崎遺跡で土地利用の痕跡が認められるのは縄文時代早期前葉からであり、撚糸文系の土器が出土し

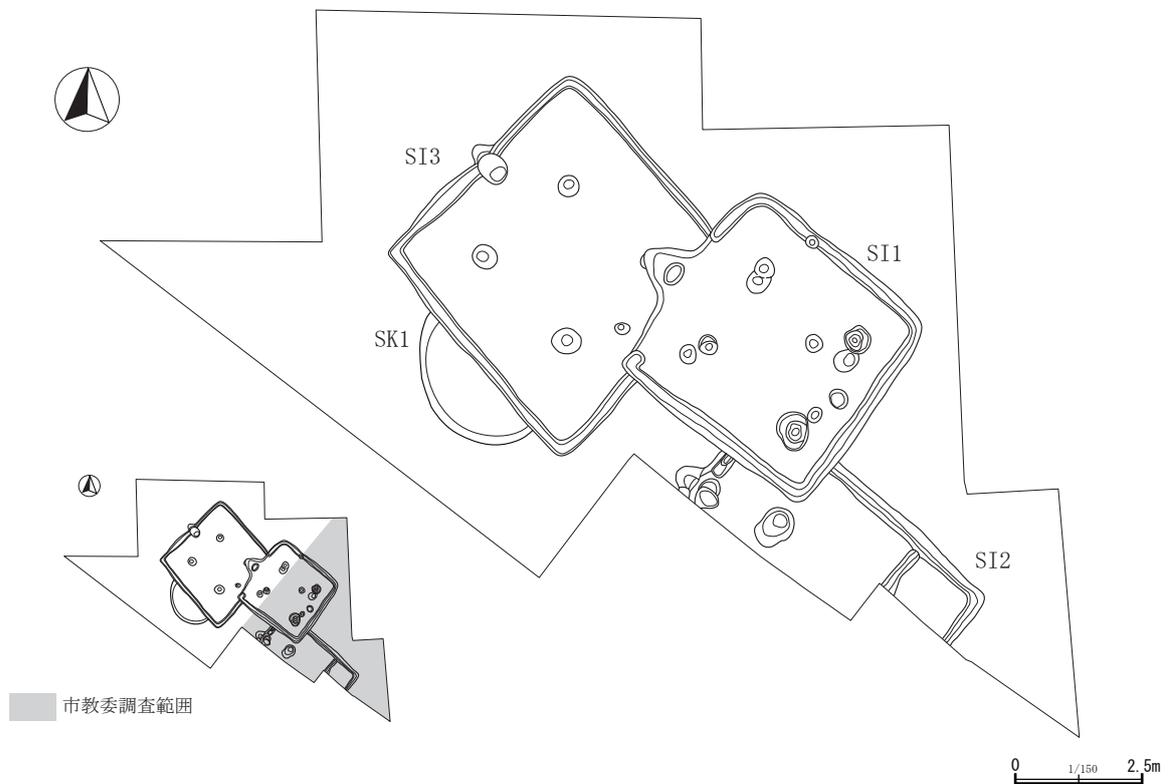


第1図 根崎遺跡の調査歴



※トーン部分は遺構が確認された範囲

第2図 本調査範囲と確認調査範囲



第3図 遺構配置図

ている。その後は前期後葉の土器なども出土しているが、遺構の形成が活発になるのは中期前葉の阿玉台式期であり、竪穴建物跡や小竪穴が検出されている。阿玉台式期以降は、後期の土器が少量検出されるにとどまっている。その後は県内でも調査例が少ない弥生前期末葉と考えられる竪穴建物跡が調査されているが、ごく小規模な集落と考えられる。以降、空白期間が続くが古墳時代中期には小規模な集落が検出されている。根崎遺跡において最も土地利用が活発化するの古墳時代終末期以降であり、奈良・平安時代にかけて大規模な集落跡が調査されている。中世以降は再び土地利用の痕跡は明確ではないが、近世と考えられる溝状遺構などが検出されている。

なお、昭和58・59年度調査を第1次調査、平成元～4年度の調査を第2次調査、平成4年度の調査を第3次調査、平成6年度の調査を第4次調査、平成7年度の調査を第5次調査、平成10年度の調査を第6次調査、本報告の令和2年度調査を第7次調査と呼称する。遺構番号は過去の調査からの通し番号とはしていない。

3 調査・整理の方法（第2・3図）

調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。今回の調査は、調査対象地125㎡のうち、個人住宅建設予定地44㎡は千葉市教育委員会が行い、来年度以降別途報告書を刊行する予定である。本報告書で報告するのは公益財団法人千葉市教育振興財団が調査した長屋住宅建設予定地81㎡である。なお、整理作業にあたっては市内遺跡調査分とも接合関係を確認して整理作業を行い、特に第1号竪穴建物跡のように同一の遺構内で調査範囲が分かれたものや遺構外出土遺物については、千葉市教育委員会による調査範囲から出土したものについても図示している。第2号竪穴建物跡については、千葉市教育委員会で刊行するものを参照されたい。

第3章 検出した遺構と遺物

1 縄文時代（第1～3表・第4～6図）

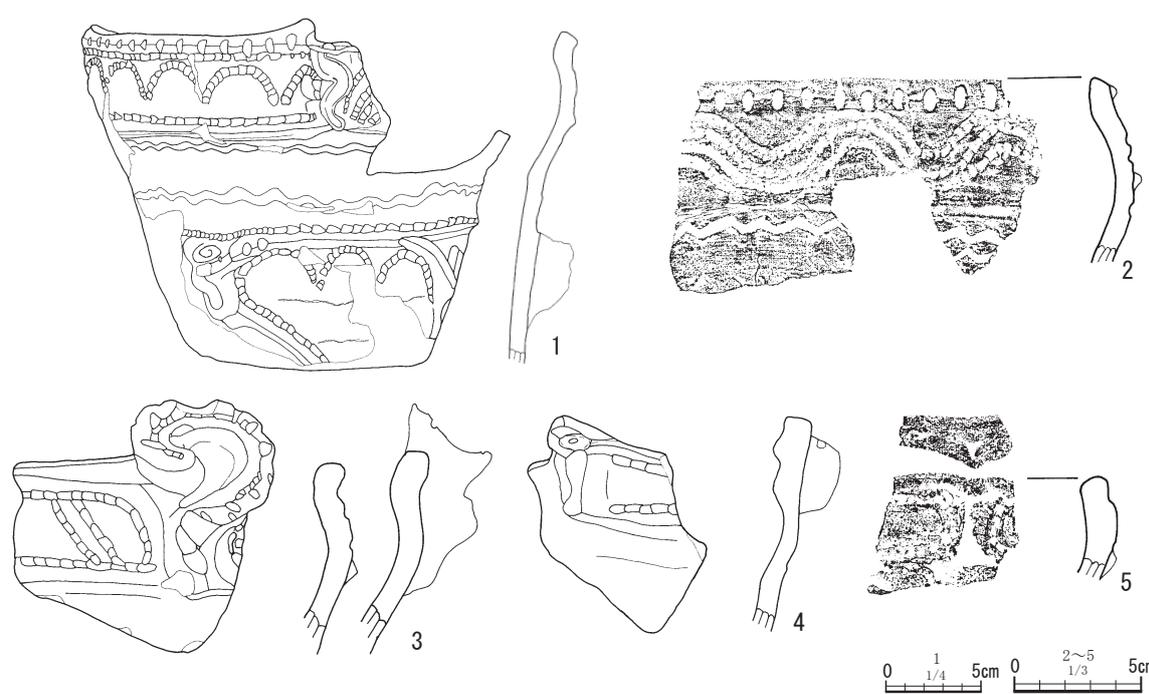
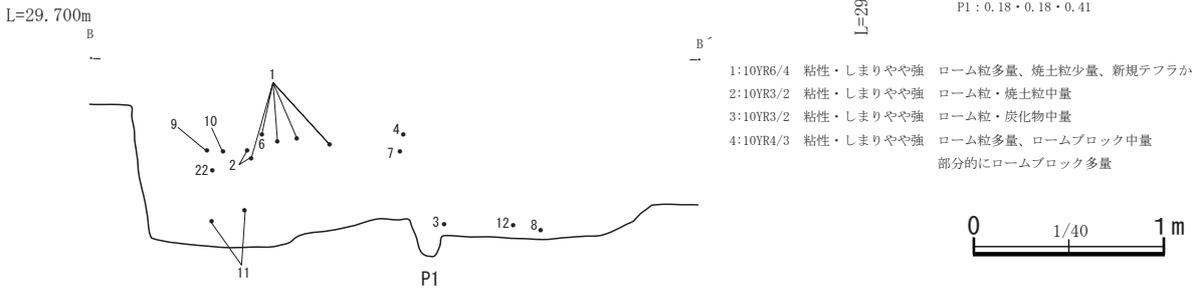
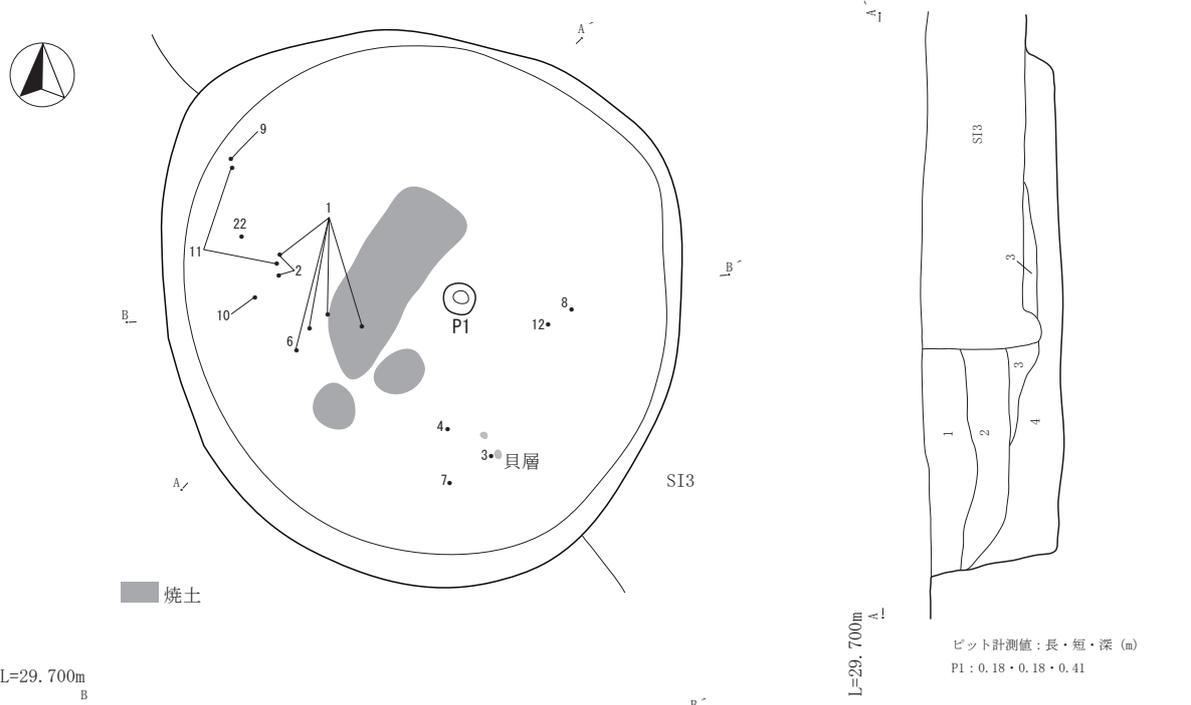
（1）概要

縄文時代の遺構としては阿玉台式期の小竪穴が1基検出された。遺構はこの1基のみであるが、調査区内及び他時期の遺構から土器・土製品・石器が出土している。遺構外出土の土器も阿玉台式が最も多いが、縄文時代早期・前期後葉～中期初頭・加曽利EⅡ式・加曽利B3式・安行式期（後期）までの土器が出土している。遺物の総数は集計表（第2表）に記載した。

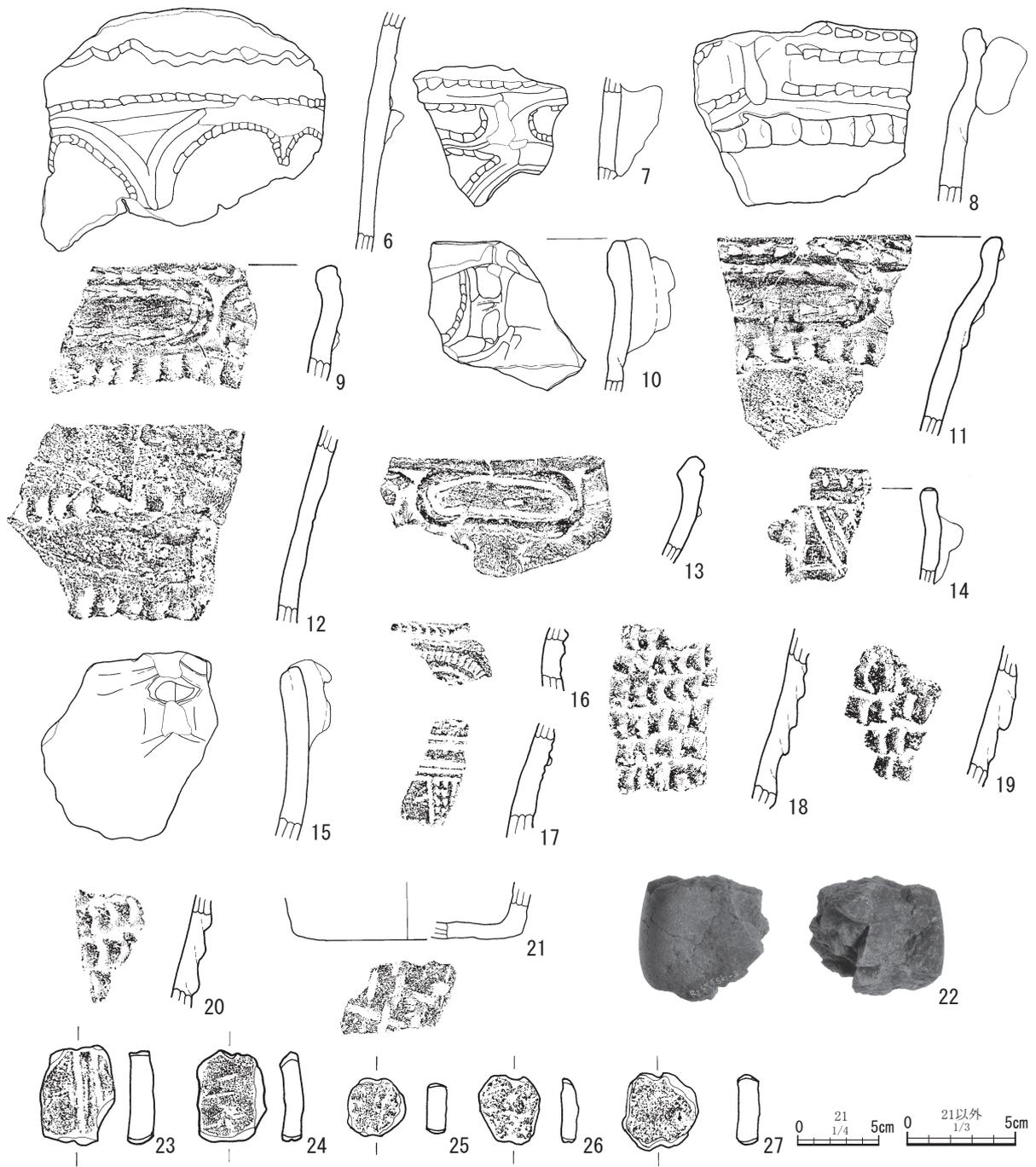
（2）土坑（小竪穴）

第1号土坑（第1～3表、第4・5図）

重複関係：第3号竪穴建物跡と重複し、本遺構が古い。いわゆる小竪穴と呼ばれる遺構である。平面形態：円形。規模：長軸3.04m、短軸2.84m、深さ0.66m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。ハードロームを床面としている。中央から柱穴が1基検出された。覆土：覆土下層4層はロームブロックが多量に混じり、人為的な埋戻しと考えられる。2～3層は焼土粒や炭化物、少量の破碎イボキサゴのブロック（9.4g）が検出され、投棄されたものか、埋没過程で火を焚くなどの行為が行われた可能性がある。炭化物を持ち帰り選別したところ、炭化種子が7点検出された（第4



第4図 第1号土坑 (1)



第5図 第1号土坑 (2)

章参照)。1層はソフトロームと区別が難しく、新規テフラの可能性はある。遺物：破片が主体を占めるが、床面及び覆土中から出土し、2・3層からの出土が多い。炭化物中からは焼成粘土塊が少量出土した。また、黒曜石の剥片や礫が一定量出土した（第4章第1表）。時期：出土した深鉢の文様構成および器形の特徴から阿玉台式前半。

(3) 遺構外出土遺物 (第2・3表、第6図)

本調査で検出された縄文時代の遺構は小竪穴1基だが、各遺構の覆土及び調査区内から縄文時代の



第6図 縄文時代遺構外

土器・土製品・石器が検出されている。最も多く出土しているのは阿玉台式であり、それ以外に縄文早期～後期までの時期幅がある。また、黒曜石の剥片類が各遺構から一定量出土している。

2 古墳時代（第2・3表、第7・8図）

(1) 概要

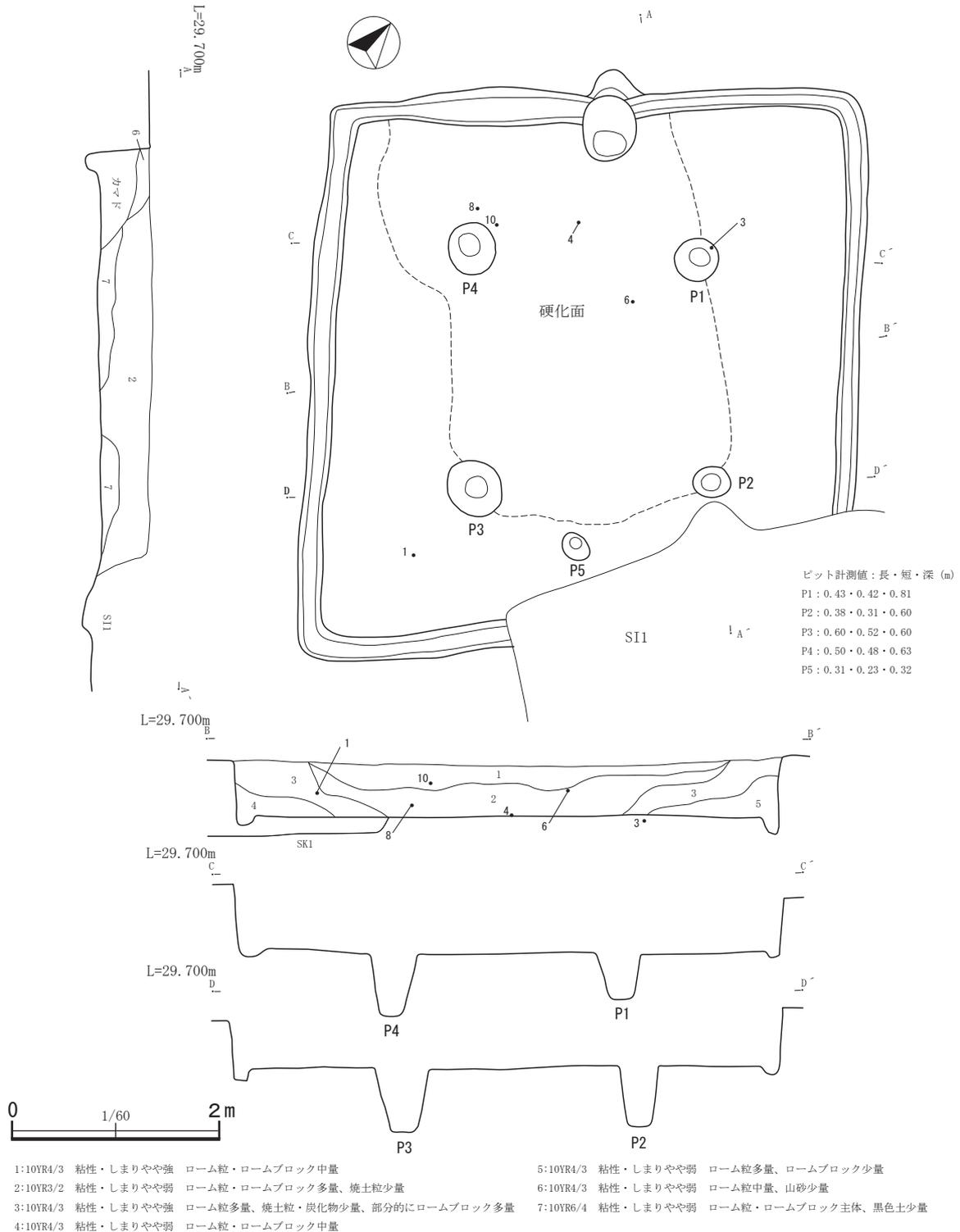
古墳時代終末期の竪穴建物跡1軒が検出された。各遺構の遺物の総数は集計表(第2表)に記載した。

(2) 竪穴建物跡

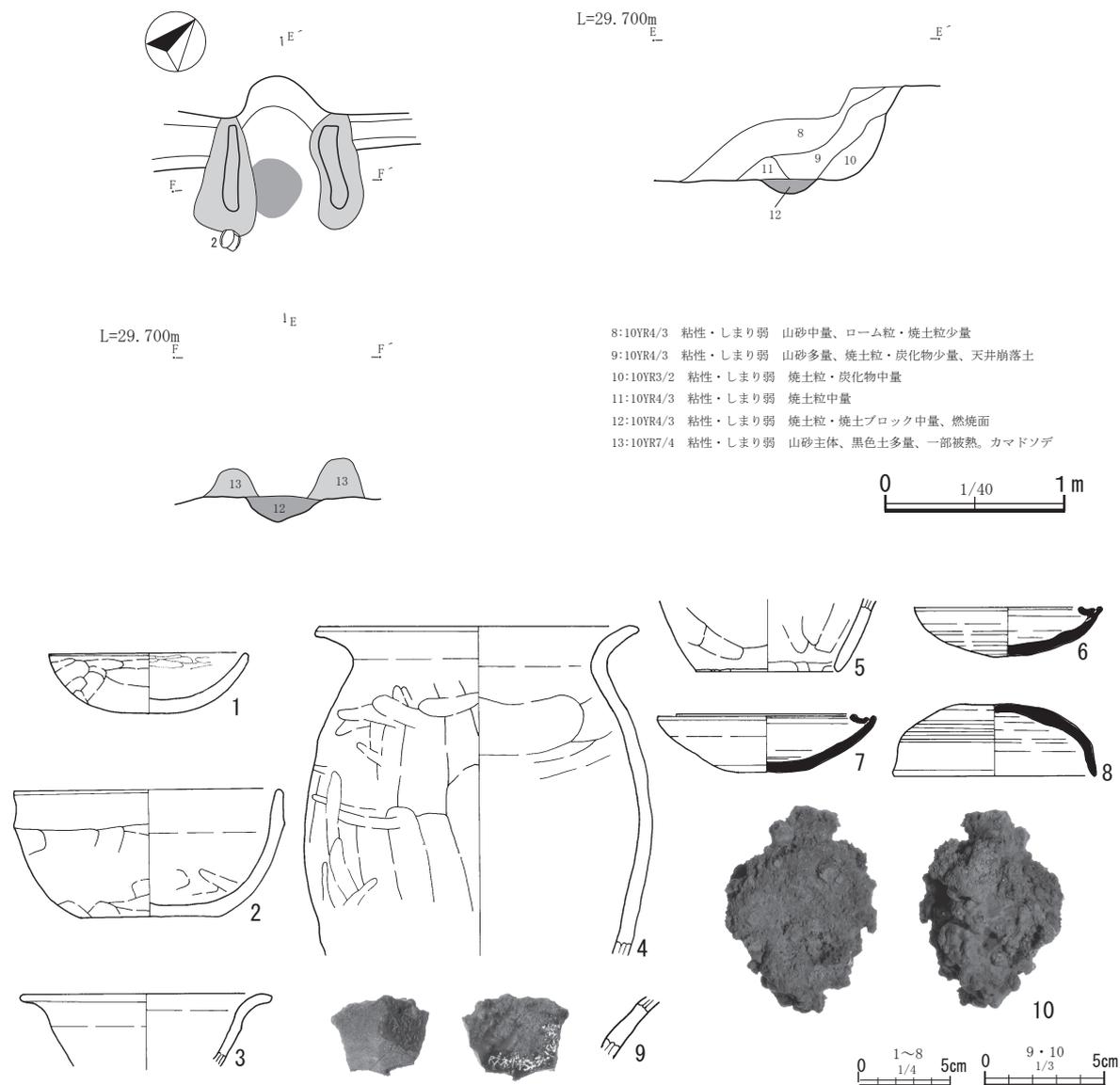
第3号竪穴建物跡（第2・3表、第7・8図）

重複関係：第1号竪穴建物跡、第1号土坑と重複し、第1号土坑より新しく、第1号竪穴建物跡よりも古い。平面形態：方形。規模：長軸5.42m、短軸5.30m、深さ0.81m。主軸方位：N-41° - W。

構造：床面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。中央部分はハードロームを床面とし、壁付近は貼床である。中央部分が硬化していた。柱穴が5基検出され、壁溝は確認された範囲では全周し、幅0.41m、深さ0.10mを測る。カマドが西壁から検出され、ソデが一部残存していた。覆土：壁際の3～5層は崩落土と考えられ、2層は多量のロームブロックが混入することから、人為的な埋戻しと



第7図 第3号竪穴建物跡 (1)



第8図 第3号竪穴建物跡 (2)

考えられる。遺物：覆土中及び床面からの遺物の出土は非常に少なく、小破片が多い。カマドのソデに接して第8図2の鉢が、また、カマド前から第8図4の甕と支脚が重なった状態で出土している。第8図9は内面には全面、外面の一部に熔解した鉄が付着し、土師器の甕ないし鉢を製鉄関連遺物に転用した可能性がある。第8図10は鉄滓で覆土上層から出土している。カマド内からは種不明の炭化種子が1点検出された。時期：須恵器坏の特徴から古墳時代終末期、TK217型式期。

3 奈良時代 (第2・3表、第9～12図)

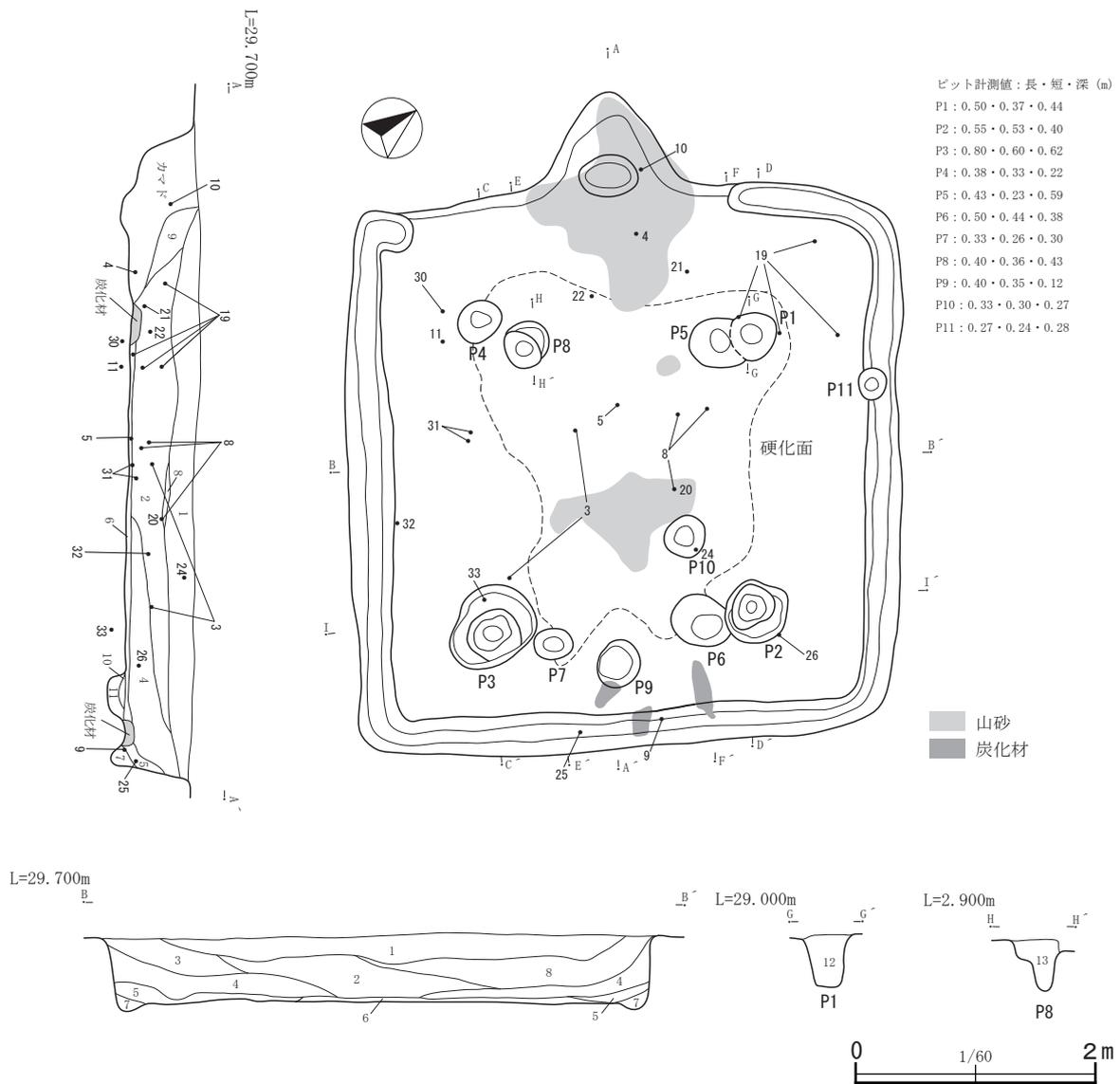
(1) 概要

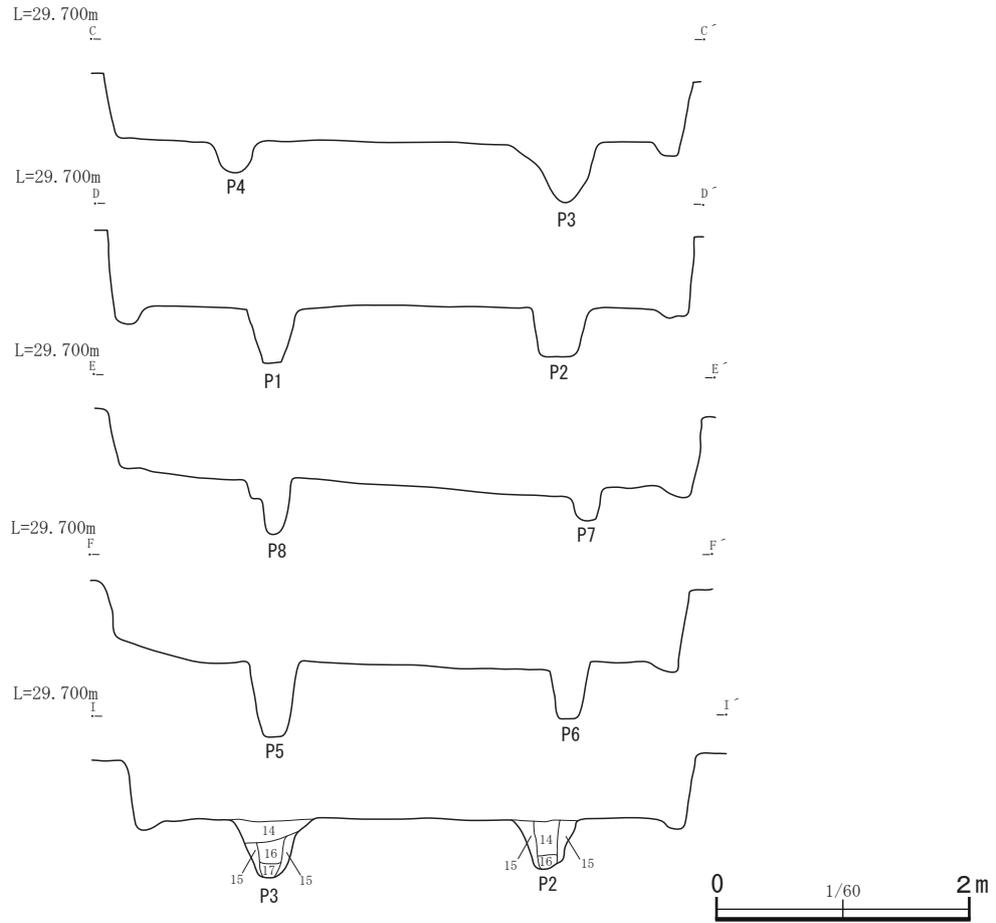
千葉市教育委員会による調査範囲も含めると、奈良時代の竪穴建物跡2軒が検出された。本遺構は千葉市教育委員会により東側が調査されているが、本調査と合わせて報告する。遺物の総数は集計表(第2表)に記載した。

(2) 竪穴建物跡

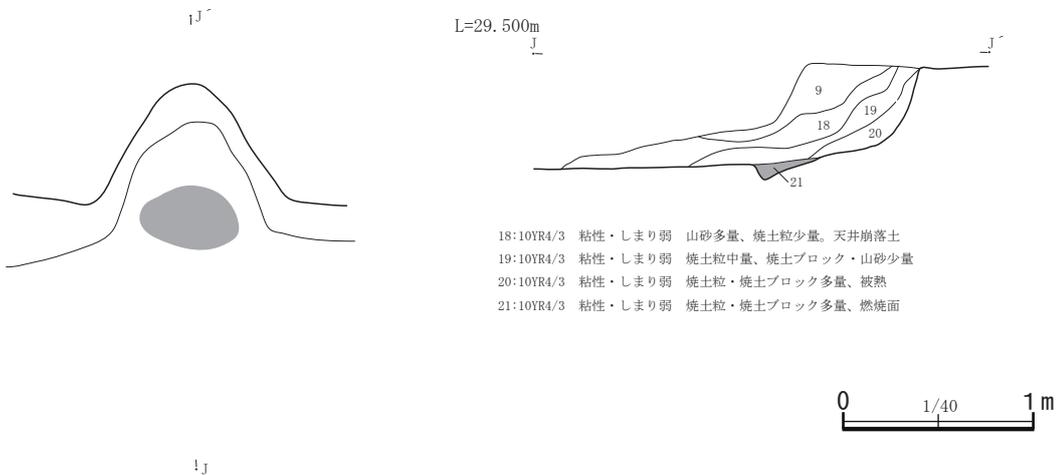
第1号竪穴建物跡 (第2・3表、第9～12図)

重複関係: 第2・3号竪穴建物跡と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態: 方形。規模: 長軸 5.48m、短軸 4.58m、深さ 0.63m。主軸方位: N -57° - W。構造: 床面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。柱穴が 10 基検出され、P5～8が拡張前の支柱穴、P1～4が拡張後の支柱穴と考えられ、建て替えに伴い拡張が行われたものと考えられる。それ以外に補助的な柱穴の可能性のある柱穴が検出された。壁溝は全周せず、幅 0.41m、深さ 0.06m を測る。カマドが西壁から検出され、天井やソデは残存しておらず、カマド前に流出していた。覆土: ロームブロックやローム粒、焼土粒が多量に混じり均質的であることから、人為的な埋戻しと考えられる。拡張前の柱穴である P5～8の覆土はロームブロックが多量に混入し、埋め戻したと考えられる。遺物: 覆土中及び床面からの遺物の出土は比較的多いが、小破片が多い。土器の個体数は多いものの小破片が大多数を占め、接合率は低く、破損したものを埋め戻す際に投棄したものと考えられる。

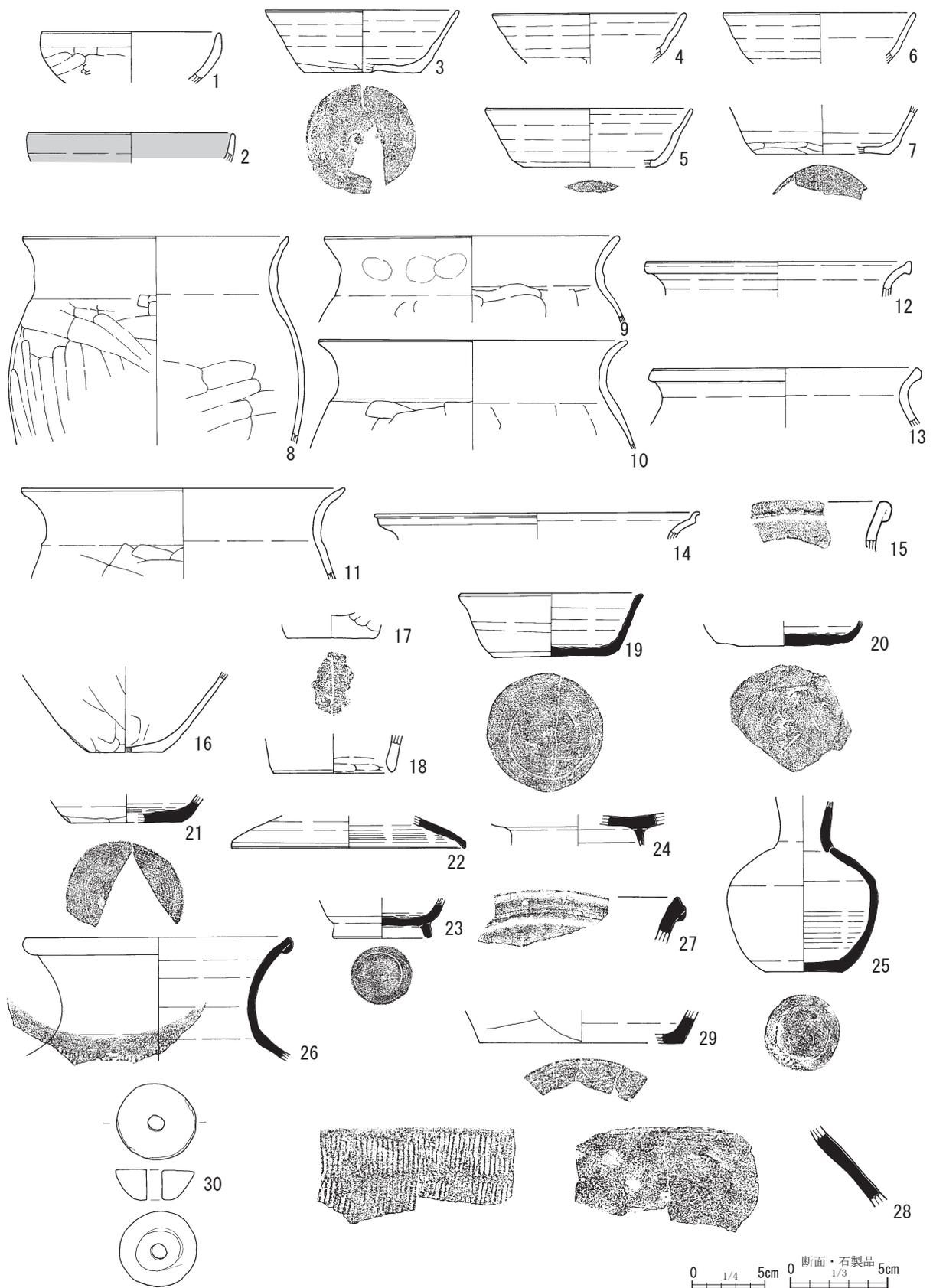




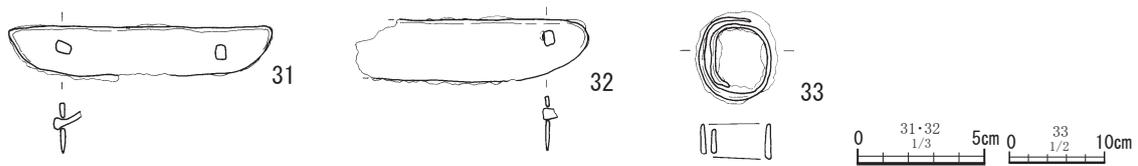
- | | |
|--|---|
| 1:7.5YR4/3 粘性・しまり弱 ローム粒・焼土粒少量 | 10:7.5YR3/3 粘性・しまり弱 ローム粒・焼土粒・山砂少量 |
| 2:5YR3/4 粘性・しまり弱 ローム粒・焼土粒中量、焼土ブロック少量 | 11:7.5YR4/4 粘性・しまり弱 ローム粒多量、ロームブロック少量 |
| 3:7.5YR3/3 粘性・しまり強 ローム粒・ロームブロック少量 | 12:10YR4/3 粘性・しまり弱 ローム粒多量、ロームブロック・焼土粒少量 |
| 4:7.5YR3/4 粘性・しまり弱 ローム粒中量、ロームブロック・焼土粒・焼土ブロック少量 | 13:10YR4/3 粘性・しまりやや弱 ロームブロック多量、人為的な埋土 |
| 5:7.5YR3/4 粘性・しまり弱 ローム粒・ロームブロック少量 | 14:7.5YR3/3 粘性・しまり強 ローム粒少量 |
| 6:7.5YR3/2 粘性・しまり弱 炭化物・焼土粒・山砂中量、ローム粒少量 | 15:7.5YR4/6 粘性・しまり強 ローム粒多量、ロームブロック中量 |
| 7:7.5YR4/6 粘性・しまり弱 ローム粒多量、ロームブロック中量、焼土粒・山砂少量 | 16:7.5YR4/3 粘性・しまり弱 ローム粒多量、ロームブロック少量 |
| 8:7.5YR3/3 粘性・しまり強 ローム粒中量、ロームブロック・焼土粒少量 | 17:7.5YR4/4 粘性・しまり強 ローム粒多量 |
| 9:10YR4/3 粘性・しまり弱 ローム粒・山砂中量、炭化物少量 | |



第10図 第1号竖穴建物跡 (2)



第11图 第1号竖穴建物跡(3)



第12図 第1号竪穴建物跡(4)

床面近くから鉄製穂摘具(第12図31・32)・不明鉄製品(第12図33)、建物跡掘方から石製紡錘車(第11図30)が出土している。カマド内の土サンプルから、イネ3点を含む炭化種子6点が検出された。時期：土師器坏および須恵器坏の特徴から奈良時代前半。

(3) 遺構外出土遺物(第2表)

本調査で検出されたのは竪穴建物跡1軒だが、他時代の遺構覆土及び調査区内から遺物が僅かに出土している。遺物の総数は集計表(第2表)に記載した。

第4章 まとめ

1 縄文時代

縄文時代の遺構としては小竪穴が1基検出された。それ以外に遺構外から土器片・土製品・石器が出土した。時期幅は早期～後期まであり、最も多いのは中期前葉の阿玉台式である。検出された小竪穴の時期は阿玉台式前半であるが、当遺跡は過去の調査でも遺構が形成されるのは阿玉台式前半の時期にほぼ限られることが判明しており、今回の調査も過去の調査と整合的な成果となった。

小竪穴からはごく少量のイボキサゴの破碎ブロックと、炭化物中から種不明だが炭化種子が7点と樹皮の可能性のあるものが検出された(写真2)。縄文時代における種子類の検出例は少なく、注目される。また、本遺構及び他遺構から、黒曜石の剥片が比較的多く出土し、遺構外の剥片についても阿玉台式期の可能性が高い。小竪穴出土黒曜石の剥片計測表と出土黒曜石の集合写真を示す(写真1・第1表)。

2 古墳時代

古墳時代終末期(TK217型式期)の竪穴建物跡が1軒検出された。根崎遺跡は過去の調査でも古墳時代終末期から急激に遺構数が増加することが判明しており、過去の調査と整合的である。また、カマド内の土サンプルから種不明の種子が1点検出された。

3 奈良時代

千葉市教育委員会の調査分を含めると、奈良時代前半の竪穴建物跡が2軒検出された。根崎遺跡は奈良時代・平安時代にかけての大規模集落であり、過去の調査でも多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡が調査された。今回調査された竪穴建物跡2軒も集落を構成する一部と言える。

また、第1・2号竪穴建物跡からは鉄製品・青銅製品が出土している。第1号竪穴建物跡からは鉄製穂摘具2点、不明鉄製品(絞具か)が出土し、第2号竪穴建物跡からは青銅製の刀装具が出土している。刀装具の蛍光X線分析の結果、銀(Ag)と水銀(Hg)が検出されたことから、表面にアマルガ

ム法による、銀鍍金が施されていた可能性がある。また、第1号竪穴建物跡のカマド土サンプルからは、イネ3点を含む炭化種子が6点検出された（写真2）。

今回の調査は限られた範囲の調査ではあったが、根崎遺跡の全容を知るための資料を蓄積することとなった。



写真1 出土黒曜石集合



写真2 出土炭化種子集合

第1表 SK1黒曜石剥片計測表

No	幅 (mm)	長さ (mm)	重さ (g)
1	7.09	7.35	0.1
2	5.75	8.05	0.1
3	7.45	11.56	0.1
4	8.63	13.39	0.3
5	9.36	17.32	0.3
6	10.41	14.56	0.4
7	12.04	12.39	0.4
8	11.62	15.36	0.5
9	12.09	15.02	0.6
10	14.07	18.87	0.8
11	12.25	25.48	1.1
12	15.67	22.15	1.1
13	12.76	20.25	1.9
14	22.91	25.8	1.9
15	18.15	21.3	3.4
16	22.77	23.33	5.0
17	14.02	27.77	6.8
18	19.36	39.74	8.9
19	29.47	33.08	15.1
計			総重量：48.8

参考文献

- 倉田義広 2003 『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書—平成14年度—』 千葉市教育委員会生涯学習部文化課
- 湖口淳一 1997 『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 根崎遺跡』 千葉市原町第三土地区画整理組合
- 佐藤順一 1999 『千葉市根崎遺跡—K地点—』 本木操・財団法人千葉市文化財調査協会
- 白根義久 1995 『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 山王遺跡』 千葉市原町第三土地区画整理組合・財団法人千葉市文化財調査協会
- 白根義久 1996 『千葉市原町遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 台畑遺跡』 千葉市原町第三土地区画整理組合
- 塚原勇人 2004 『千葉市台畑遺跡—平成15年度調査—』 正福寺・財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
- 鶴岡英一 1994 「3. 根崎遺跡G地区」 『財団法人千葉市文化財調査協会年報6—平成4年度—』 財団法人千葉市文化財調査協会 pp. 14-15
- 鶴岡英一 1995 『千葉市根崎遺跡（I地区）—平成6年度発掘調査報告書—』 湯浅さみ・財団法人千葉市文化財調査協会
- 鶴岡英一 1997 「8. 根崎遺跡H地区（原町遺跡群）」 『財団法人千葉市文化財調査協会年報9—平成7年度—』 財団法人千葉市文化財調査協会 pp. 24-25
- 寺門義範・山下亮介編 1990 『埋蔵文化財調査（原町遺跡群）報告書—昭和63・平成元年度—』 千葉市教育委員会
- 山口典子・古内茂・森本和男・池田大助・小林清隆 1986 『千葉都市モノレール関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 千葉県都市部モノレール建設課

第2表 出土遺物集計表

遺構名			建物跡				土坑		調査区		総計	
			1		3		1					
残存			個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片		
縄文	土器	条痕文系		7		16		2		6	31	
		黒浜式								1	1	
		前期後葉～中期初頭		1		2					1	4
		阿玉台式（角押文・有節沈線）		6		33	1	28		13	81	
		阿玉台式（隆帯・ヒダ状文）		13		33		34		7	87	
		阿玉台式（沈線）		3		2		2			7	
		阿玉台式（無文）		2		6		39		3	50	
		勝坂式系						2			2	
		加曽利EⅡ式		1						1	2	
		中期末～後期初頭					1				1	
		堀之内2式					1				1	
		加曽利B3式		1		6		2			9	
		安行式（後期）		4		1					5	
		後期					3				2	5
	無文					11		19		17	68	
	縄文のみ					7		1		6	20	
	沈線のみ					2				1	3	
	土製品	土器片錘			2		5				7	
	石器	打製石斧							1		1	
		磨石類					1				1	
	石鏃	黒曜石			1						1	
		黒曜石	8		22		21		3		54	
	剥片	チャート	2								2	
安山岩						1				1		
不明		1								1		
焼成粘土塊							20			20		
古墳後期	土師器	坏			1	17					18	
		鉢				5					5	
		甕			1	5					6	
		甌				1					1	
		甕・甌				242					242	
	須恵器	坏身			1	1					2	
		坏蓋				1					1	
		壺・瓶類					1				1	
	土製品	支脚				1					1	
		不明					1				1	
鉄製品	鉄滓				6					6		
焼成粘土塊						25				25		
奈良	土師器	坏	1	127						6	134	
		鉢								1	1	
		甕				38					1	39
		甌				2					2	
		甕・甌			1160					43	1203	
	須恵器	坏身	1	76		1				2	80	
		坏蓋				8					8	
		高台付坏	1	1							2	
		壺・瓶類	1	4							5	
	土製品	支脚				32				2	34	
		支脚	1								1	
		紡錘車	1								1	
		穂摘具	2								2	
鉄製品	不明	1								1		
	焼成粘土塊			34							34	
近世	土器								1	1		
	陶磁器								1	1		
	土製品							2		2		
軽石			1							1		
礫			53		27		22		12	114		
時期不明土器				253		55		54		63	425	
総計			108	1759	88	460	71	183	18	178	2865	

第3表 出土遺物観察表
第1号土坑

1	縄文土器 深鉢	21.0 - <13.2>	1/3残存。内面ナデ及びヘラミガキ。外面口唇部刻み。外面は口唇直下を押引文で区画。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。区画内は1条の押引文で連弧文。右側は文様構成が異なり、4条の押引文で波状文が施文されると思われる。隆帯間は沈線による2条の波状文。下半の隆帯にも隆帯に沿わせて1条の押引文を施文し、一部連弧文とする。口縁部外面には粘土棒を芯にした貼付文、胴部にも粘土棒を芯にした貼付文及び弧状の文様を施す。波状口縁。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：10YR3/1 内面：7.5YR4/2	良好
2	縄文土器 深鉢	- - <7.5>	口縁部片。内面ナデ及びヘラミガキ。外面は口唇部刻み。下部を隆帯で区画し、内部は4条の押引文で波状文を施文。隆帯下部は沈線による波状文。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：10YR4/2 内面：10YR5/3	良好
3	縄文土器 深鉢	- - <9.9>	口縁部片。内面ナデ。下部は隆帯で区画し、区画内を1条の押引文で楕円状に区画。内部に2条の押引文を斜位に施文。口唇部には渦巻状の突起を貼付し、1条の押引文及び同一工具による刻み。波状口縁。阿玉台式前半。	礫少量、金雲母中量。	外面：7.5YR4/1 内面：10YR4/1	良好
4	縄文土器 深鉢	- - <8.4>	口縁部片。内面ナデ。口唇部直下を押引文で区画。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。粘土棒を芯としたつまみ状突起を施文。波状口縁。阿玉台式前半。	礫少量、金雲母中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR4/3	良好
5	縄文土器 深鉢	- - <4.2>	口縁部片。内面ヘラケズリ。口縁部外面は隆帯により楕円形に区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文を施文。阿玉台式前半。	礫少量、金雲母中量。	外面：5YR4/2 内面：7.5YR4/2	良好
6	縄文土器 深鉢	- - <11.1>	胴部片。内面ナデ及びヘラミガキ。上部は沈線による波状文。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。隆帯により弧状の文様を施文する。1と同一個体。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：10YR4/1 内面：7.5YR5/4	良好
7	縄文土器 深鉢	- - <4.8>	胴部片。内面ナデ。上部は押引文による区画。隆帯により楕円形に区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文。中央はつまみ状突起。下部は弧状に隆帯を施文し、隆帯に沿わせて押引文を施文。阿玉台式前半。	礫少量、金雲母中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
8	縄文土器 深鉢	- - <8.1>	口縁部片。内面ナデ。口唇部に刻み。口縁部は隆帯により区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文。つまみ状突起を施文し、下部はヒダ状文。波状口縁。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：7.5YR4/2 内面：5YR4/3	良好
9	縄文土器 深鉢	- - <5.4>	口縁部片。内面ナデ。口唇部に刻み。口縁部は隆帯により楕円形に区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文。下部はヒダ状文。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：5YR4/3 内面：5YR4/3	良好
10	縄文土器 深鉢	- - <7.2>	口縁部片。内面ミガキ。口唇部外面は剥落により不明。口縁部は左側は隆帯により楕円形に区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文。粘土棒を芯としたつまみ状突起が施される。下部に輪積痕残る。阿玉台式前半。	石英・白色粒中量。	外面：5YR4/2 内面：7.5YR4/3	良好
11	縄文土器 深鉢	- - <9.0>	口縁部片。内面ナデ。口唇部に刻み。口縁部は隆帯により区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文。下部はヒダ状文。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：5YR4/2 内面：5YR4/3	良好
12	縄文土器 深鉢	- - <9.0>	胴部片。内面ナデ。外面ヒダ状文。突起が貼付されると思われるが、剥落により不明。阿玉台式前半。	金雲母微量、石英少量、白色粒・礫多量。	外面：5YR4/2 内面：5YR4/2	良好
13	縄文土器 深鉢	- - <5.1>	口縁部片。内面ミガキ。口縁部は隆帯により楕円形に区画し、内部は隆帯に沿わせて押引文。波状口縁。阿玉台式前半。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR4/4 内面：5YR3/4	良好
14	縄文土器 深鉢	- - <4.5>	口縁部片。内面ナデ。口唇部に刻み。外面は半裁竹管状の工具により方形に区画し、内部は同一工具による3条の沈線。粘土棒を芯としたつまみ状突起が施文される。阿玉台式前半。	石英・白色粒中量。	外面：5YR5/6 内面：5YR4/3	良好
15	縄文土器 深鉢	- - <8.4>	口縁部片。内面ナデ。粘土棒を芯としたつまみ状突起が施文される。波状口縁。阿玉台式前半。	礫・白色粒・石英・金雲母中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/1	良好
16	縄文土器 深鉢	- - <3.0>	胴部片。内面ナデ。外面上部は押引文を沿わせた沈線。下部は3条の押引文で弧状の文様を施文。勝坂式系。	金雲母少量、礫多量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
17	縄文土器 深鉢	- - <5.4>	胴部片。内面ナデ。外面上部は2条の押引文を沿わせた隆帯で区画。下部は押引文で区画し、縦位に区画した細かい押引文の内部に2条の押引文を施文。勝坂式系。	金雲母少量、礫多量。	外面：5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
18	縄文土器 深鉢	- - <8.4>	胴部片。内面ミガキ。外面ヒダ状文。阿玉台式前半。	礫・白色粒・金雲母少量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR2/1	良好
19	縄文土器 深鉢	- - <6.6>	胴部片。内面ミガキ。外面ヒダ状文。阿玉台式前半。	礫・白色粒・金雲母少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/2	良好

20	縄文土器 深鉢	- - <5.1>	胴部片。内面ミガキ。外面ヒダ状文。阿玉台式前半。	礫・白色粒・ 金雲母少量。	外面：7.5YR6/4 内面：10YR4/1	良好
21	縄文土器 深鉢	- (14.0) <2.7>	底部片。内面剥落。外面ナデ。底部は網代痕。阿玉台式前半。	礫・金雲母多 量。	外面：5YR5/4 内面：10YR5/3	良好
22	石器 磨石類		破片。長さ<5.4cm>、幅<5.8cm>、厚さ<4.7>cm、重量150.8g。一部に敲打痕が確認される。被熱。			
23	土製品 土器片錘		完形。長さ4.3cm、幅3.5cm、厚さ1.1cm、重量19.6g。	礫・金雲母多 量。	外面：10YR4/1 内面：10YR5/3	良好
24	土製品 土器片錘		完形。長さ4.1cm、幅3.1cm、厚さ0.9cm、重量15.2g。	礫・金雲母少 量。	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	良好
25	土製品 土器片錘		完形。長さ2.3cm、幅2.6cm、厚さ0.9cm、重量7.6g。	礫・金雲母中 量。	外面：5YR3/1 内面：5YR3/1	良好
26	土製品 土器片錘		完形。長さ2.9cm、幅2.8cm、厚さ0.8cm、重量8.1g。	石英・白色粒 少量。	外面：2.5YR3/3 内面：5YR3/2	良好
27	土製品 土器片錘		完形。長さ2.7cm、幅3.5cm、厚さ1.0cm、重量16.1g。	白色粒・金雲 母微量。	外面：2.5Y2/1 内面：10YR3/2	良好

縄文時代遺構外

1	縄文土器 深鉢	- - <4.8>	口縁部片。内外面条痕文。条痕文系。SI3出土。	礫微量、石 英・白色粒中 量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/3	良好
2	縄文土器 深鉢	- - <8.7>	胴部片。内外面条痕文。外面は弧状の文様が施文される。条痕文系。調査区出土。	赤褐色粒微 量、石英・白 色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR5/3	良好
3	縄文土器 深鉢	- - <2.1>	口縁部片。内面ナデ。口唇部刻み。外面貝殻腹縁文。前期後葉～中期初頭。SI3出土。	礫・石英少 量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/4	良好
4	縄文土器 深鉢	- - <3.3>	胴部片。内面ナデ。外面貝殻腹縁文。前期後葉～中期初頭。SI1出土。	礫・石英少 量、白色粒多 量。	外面：5YR5/4 内面：5YR4/1	良好
5	縄文土器 深鉢	- - <5.4>	口縁部片。内面ナデ。口唇部及び外面は縄文（原体複節RLR）。前期後葉～中期初頭。SI3出土。	石英・白色粒 少量。	外面：10YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
6	縄文土器 深鉢	- - <6.9>	口縁部片。内面ナデ。口唇部押引文。外面は口唇直下を押引文で区画。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。区画内は2列の押引文で半円を施文。阿玉台式前半。調査区出土。	礫・金雲母多 量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
7	縄文土器 深鉢	- - <3.9>	口縁部片。内面ナデ。口唇直下は押引文で区画。下部は斜位の押引文が3列確認される。阿玉台式前半。SI2出土。	礫・金雲母中 量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR5/4	良好
8	縄文土器 深鉢	- - <5.4>	口縁部片。内面ナデ。口唇直下及び下部を押引文で区画。内部は1列の押引文で弧状を施文。阿玉台式前半。調査区出土。	礫・金雲母多 量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/4	良好
9	縄文土器 深鉢	- - <4.5>	口縁部片。内面ヘラナデ。口唇直下を押引文で区画。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。下部には1列の押引文による弧状の文様が確認できる。阿玉台式前半。SI3出土。	礫・金雲母少 量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
10	縄文土器 深鉢	- - <6.0>	口縁部片。内面ナデ。口唇直下を押引文で区画。下部は隆帯で区画し、隆帯に沿わせて押引文を施文。阿玉台式前半。SI3出土。	白色粒・金雲 母少量。	外面：5YR4/1 内面：5YR4/2	良好
11	縄文土器 深鉢	- - <3.6>	胴部片。内面ミガキ。外面は隆帯に沿わせて複数列の押引文を施文し、下部は弧状の文様を施文。内部は同一の工具で刺突文が充填される。阿玉台式前半。SI3出土。	礫・金雲母中 量。	外面：5YR4/1 内面：7.5YR4/3	良好
12	縄文土器 深鉢	- - <4.8>	胴部片。内面ナデ。外面磨消縄文（撚糸文L）。加曾利EⅡ式。SI1出土。	礫・白色粒中 量。	外面：2.5YR5/6 内面：7.5YR5/2	良好
13	縄文土器 深鉢	- - <5.4>	口縁部片。内面ミガキ。外面は口縁部を沈線で区画する。加曾利EⅡ式か。SI3出土。	礫・石英・白 色粒微量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
14	縄文土器 深鉢	- - <5.7>	口縁部片。内面ナデ。内面口唇直下に櫛歯状工具による文様を施文。外面は縄文（原体LR）。波状口縁。堀之内2式。SI3出土。	白色粒少量、 石英中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
15	縄文土器 深鉢	- - <8.4>	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体単節LR）。下部は斜沈線。加曾利B3式。SI3・SK1出土。	礫・白色粒微 量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR4/2	良好
16	縄文土器 深鉢	- - <3.0>	口縁部片。内面ナデ。外面は口唇直下に刻み。安行式（後期）。SI1出土。	礫・石英中 量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
17	縄文土器 深鉢	- - <3.3>	口縁部片。内面ヘラナデ。外面は口唇直下に隆帯を施文し、押捺する。下部は条線か。安行式（後期）。SI1出土。	石英・白色粒 微量。	外面：10YR6/4 内面：7.5YR5/4	良好
18	土製品 土器片錘		完形。長さ3.8cm、幅4.1cm、厚さ0.9cm、重量14.7g。SI3出土。	石英・白色粒 少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/2	良好

19	土製品 土器片錘	完形。長さ3.9cm、幅2.5cm、厚さ1.1cm、重量12.9g。SI3出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/1	良好
20	石器 打製石斧	完形。長さ13.1cm、幅5.7cm、厚さ2.3cm、重量199.4g。調査区出土。			
21	石器 石鏃	完形。長さ2.6cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重量1.4g。黒曜石製。SI3出土。			

第3号竪穴建物跡

1	土器器 坏	(11.0) - 3.5	1/2残存。内面ヘラミガキ。口縁部外面ヘラミガキ。体部ヘラケズリ後ミガキ。外面はやや摩耗する。	礫微量、石英中量。	外面：10YR6/4 内面：10YR5/3	良好
2	土器器 鉢	(15.0) 7.4 7.0	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/3	良好
3	土器器 鉢	(14.0) - <4.2>	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR1.7/1 内面：10YR1.7/1	良好
4	土器器 甕	17.8 - <18.3>	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリの後、棒状の工具でナデ。	礫少量、石英・白色粒中量。	外面：5YR3/1 内面：5YR2/1	良好
5	土器器 甕	- (8.0) <4.0>	底部片。内面ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。下端はヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：5YR4/3	良好
6	須恵器 坏身	(10.4) - 2.7	1/2残存。内外面共にロクロナデ。外面下部は回転ヘラケズリ。	礫・石英微量。	外面：5Y6/2 内面：2.5Y6/3	良好
7	須恵器 坏身	(12.0) - 3.1	1/3残存。内外面共にロクロナデ。外面下部は回転ヘラケズリ。	白色粒微量。	外面：5Y5/1 内面：5Y6/1	良好
8	須恵器 坏蓋	(11.0) - 4.0	4/5残存。内外面共にロクロナデ。外面は条線が施され、上部は回転ヘラ切り。	礫微量、白色粒中量。	外面：2.5Y6/1 内面：2.5Y6/2	良好
9	土製品 不明	- - <2.7>	破片。内面には全体的に、外面には一部、熔解した鉄が付着している。全体的に被熱も著しく、土器を製鉄関連遺物に転用した可能性が高い。	白色粒中量。	外面：7.5YR3/2 内面：2.5Y5/1	良好
10	鉄滓	完形。長さ8.9cm、幅6.2cm、厚さ3.1cm、重量175.4g。				

第1号竪穴建物跡

1	土器器 坏	(12.0) - <3.5>	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	石英・白色粒微量。	外面：10YR5/2 内面：10YR4/1	良好
2	土器器 坏	(14.0) - <2.0>	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	石英・白色粒微量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
3	土器器 坏	(13.0) (7.8) 4.3	2/3残存。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：5Y4/1 内面：5Y4/1	良好
4	土器器 坏	(13.0) - <3.4>	口縁部片。内外面ロクロナデ。外面下端手持ちヘラケズリ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：10Y2/1	良好
5	土器器 坏	(14.0) (9.0) 3.9	口縁部～底部片。内外面ロクロナデ。外面下端手持ちヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：10YR5/4 内面：10YR5/4	良好
6	土器器 坏	(13.0) - <3.4>	口縁部片。内外面ロクロナデ。7と同一個体。	石英・白色粒少量。	外面：10Y2/1 内面：10Y2/1	良好
7	土器器 坏	- (9.0) <3.3>	底部片。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。6と同一個体。	石英・白色粒少量。	外面：5Y2/2 内面：5Y2/2	良好
8	土器器 甕	(18.0) - <14.2>	口縁部～胴部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。外面に一部炭化物付着。	赤褐色粒・礫・石英・白色粒中量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/4	良好
9	土器器 甕	(20.0) - <5.8>	口縁部1/2残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面に指頭痕残る。外面ヘラケズリ。	赤褐色粒・礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR6/6 内面：5YR6/6	良好
10	土器器 甕	(21.0) - <7.4>	口縁部～胴部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	赤褐色粒・礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
11	土器器 甕	(22.0) - <6.2>	口縁部～胴部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/2 内面：7.5YR5/4	良好
12	土器器 甕	(18.0) - <2.4>	口縁部片。内外面共にヨコナデ。外面に一部スス付着。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/4	良好

13	土師器 甕	(18.0) - <4.1>	口縁部片。内外面共にヨコナデ。	石英・白色粒 微量。	外面：5YR4/6 内面：5YR3/4	良好
14	土師器 甕	(22.0) - <1.8>	口縁部片。内外面共にヨコナデ。	石英・白色粒 中量。	外面：7.5YR3/4 内面：7.5YR3/4	良好
15	土師器 甕	- - <2.7>	口縁部片。内外面共にヨコナデ。複合口縁。	赤褐色粒・ 礫・石英・白 色粒中量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR4/3	良好
16	土師器 甕	- (5.0) <5.4>	底部片。内面ヘラナデ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	石英・白色粒 中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR3/1	良好
17	土師器 甕	- (6.0) <1.6>	底部片。内面ナデ。底部木葉痕。	石英・白色粒 少量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/2	良好
18	土師器 甕	- (8.0) <2.6>	底部片。内外面ナデ。下端ヘラケズリ。	石英・白色粒 微量。	外面：10YR6/3 内面：10YR5/2	良好
19	須恵器 坏身	12.4 8.0 4.3	4/5残存。内外面共にロクロナデ。外面下端及び底部回転ヘラケズリ。底部に線刻が確認される。	石英・白色粒 中量。	外面：5YR5/1 内面：10YR6/3	良好
20	須恵器 坏身	- (9.0) <1.7>	体部下端～底部4/5残存。内外面共にロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	礫微量、石 英・白色粒中 量。	外面：5YR5/1 内面：5YR5/1	良好
21	須恵器 坏身	- (7.6) <1.9>	底部1/2残存。内外面共にロクロナデ。体部下端及び底部回転ヘラケズリ。	石英・白色粒 多量。	外面：10YR5/4 内面：10YR5/4	良好
22	須恵器 蓋	(16.0) - <1.2>	口縁部片。内外面ロクロナデ。外面自然釉付着。	白色粒少量。	外面：7.5Y5/2 内面：5Y6/2	良好
23	須恵器 高台付坏	- 6.8 <2.8>	2/3残存。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。底部に線刻が確認できる。	礫微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5Y5/3 内面：2.5Y5/3	良好
24	須恵器 高台付坏	- (9.0) <2.1>	底部片。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部回転ヘラケズリ。	石英・白色粒 少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/2	良好
25	須恵器 壺・瓶類	- 5.2 <12.0>	2/3残存。内外面ロクロナデ。体部と頸部の接合痕が明瞭に確認できる。底部ナデ。外面及び頸部内面、底部内面に自然釉付着。	礫・石英・白 色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR5/1	良好
26	須恵器 甕	(18.0) - <8.5>	口縁部片。内面指頭痕残る。口縁部内外面ヨコナデ。外面平行タタキ。複合口縁。	石英・白色粒 少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR5/1	良好
27	須恵器 甕	- - <2.4>	口縁部片。内外面ヨコナデ。複合口縁。	石英・白色粒 少量。	外面：10YR6/2 内面：10YR5/3	良好
28	須恵器 甕	- - <4.5>	胴部片。内面指頭痕残る。外面平行タタキ。	礫微量、石 英・白色粒少 量。	外面：10YR6/4 内面：10YR5/3	良好
29	須恵器 甕	- (14.0) <2.2>	底部片。内面ロクロナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	石英・白色粒 少量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
30	石製品 紡錘車		完形。幅3.9cm、厚さ1.6cm、重量35.3g。全体的に非常に平滑に研磨される。研磨に伴う擦痕が確認される。			
31	鉄製品 穂摘具		完形。長さ9.9cm、幅2.0cm、厚さ0.4cm、重量16.3g。裏面には全体的に木質が付着する。釘が左右ともに残存している。一部刃部を欠損する。			
32	鉄製品 穂摘具		2/3残存。長さ8.9cm、幅2.6cm、厚さ0.3cm、重量16.0g。裏面には一部木質が付着する。右側の釘が残存する。			
33	鉄製品 不明		完形。長さ2.3cm、幅2.1cm、厚さ0.1cm、重量4.2g。薄く細長い鉄板を曲げて渦巻き状とする。何らかの工具の絞具の可能性が高い。			



第1号土坑全景（北東から）



第1号土坑土層断面（北東から）



第1号土坑焼土・炭化物・貝層検出状況（北東から）



第1号土坑焼土・炭化物検出状況（北東から）



第1号土坑貝層検出状況（北東から）



第3号竪穴建物跡全景（南東から）



第3号竪穴建物跡掘方全景（南東から）



第3号竪穴建物跡カマド全景（東から）

写真図版 2



第3号竖穴建物跡土層断面（東から）



第3号竖穴建物跡遺物出土状況（東から）



第1号竖穴建物跡全景（東から）



第1号竖穴建物跡掘方全景（東から）



第1号竖穴建物跡カマド土層断面（北東から）



第1号竖穴建物跡遺物出土状況（南西から）



調査風景 1

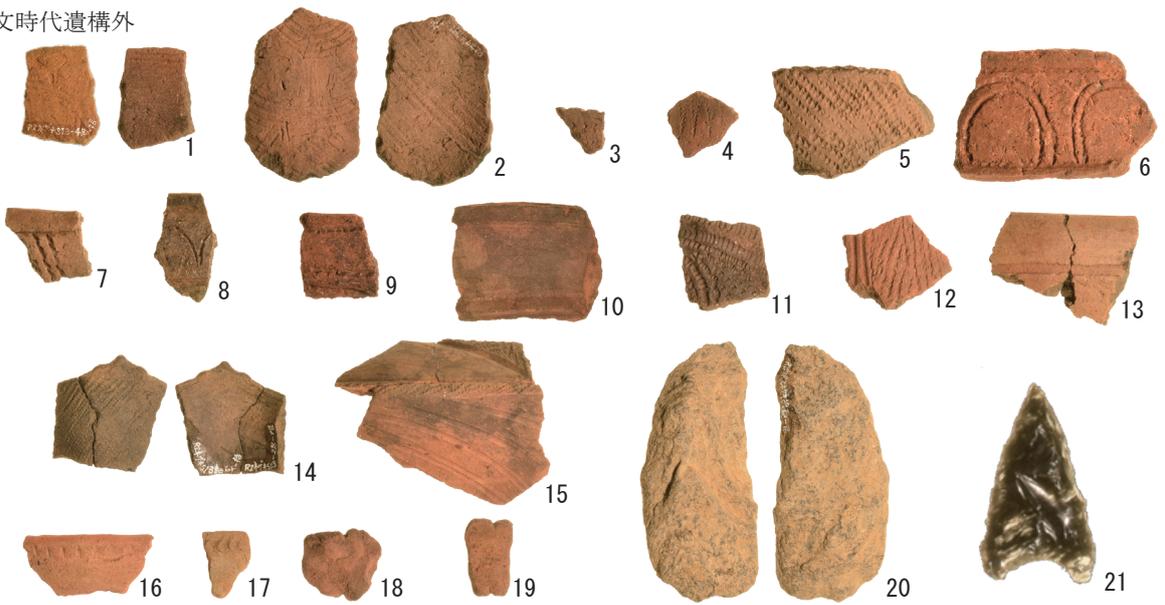


調査風景 2

第1号土坑



縄文時代遺構外



写真图版4

第3号竖穴建物跡



第1号竖穴建物跡



報告書抄録

ふりがな	ちばしねざきいせき						
書名	千葉市根崎遺跡						
副書名	長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	小林 嵩						
編集機関	公益財団法人 千葉市教育振興財団 事務局 埋蔵文化財調査担当						
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 埋蔵文化財調査センター内 TEL : 043-266-5433						
発行年月日	2021年3月26日						
ふりがな	ふりがな	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
ねざきいせき 根崎遺跡	わかばくほらまち 若葉区原町 922-3の一部	121045	若葉区 37	北緯 35° 38' 08" 東経 140° 08' 34"	20200601 ~ 20200615	81 m ²	長屋住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
根崎遺跡	集落	縄文時代	小竪穴 1基		土器・土製品・石器	貝層・炭化種子	
	集落	古墳時代	竪穴建物跡 1軒		土器・鉄製品		
	集落	奈良時代	竪穴建物跡 1軒		土器・石製品・鉄製品		
要約	<p>1 縄文時代 阿玉台式前半の小竪穴1基から貝層と炭化種子が出土している。遺構外からは早期～後期までの土器が出土している。</p> <p>2 古墳時代 古墳時代終末期の竪穴建物跡が1軒検出された。製鉄関連遺物が若干出土している。種不明の炭化種子を1点検出した。</p> <p>3 奈良時代 奈良時代前半の竪穴建物跡が千葉市教育委員会調査分も含めると2軒検出された。土器のほかに鉄製農耕具が出土している。また、イネを含む炭化種子を検出した。</p>						

千葉市根崎遺跡

—長屋住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

令和3年3月26日発行

編集・発行 公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局 埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
埋蔵文化財調査センター内
TEL : 043-266-5433

印刷 株式会社 京文社印刷
〒260-0021
千葉市中央区新宿1-25-22
TEL : 043-242-0064